



アリアケジャパン株式会社

2023年3月期 決算説明会資料

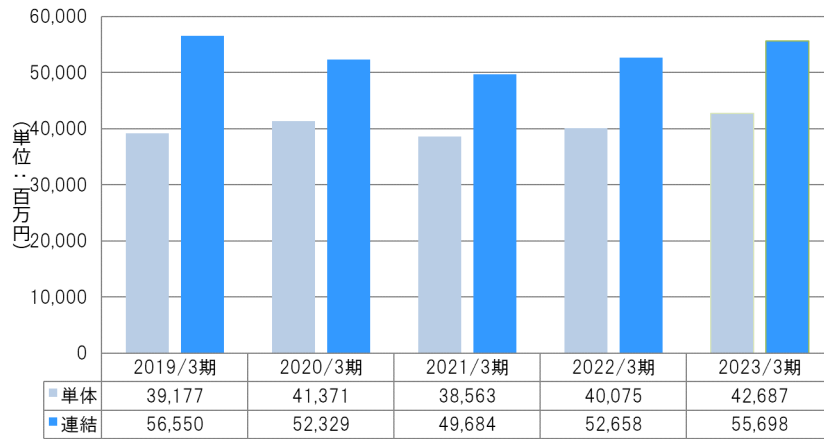
2023年5月12日 テレフォンカンファレンス
アリアケジャパン株式会社（証券コード2815）

目 次

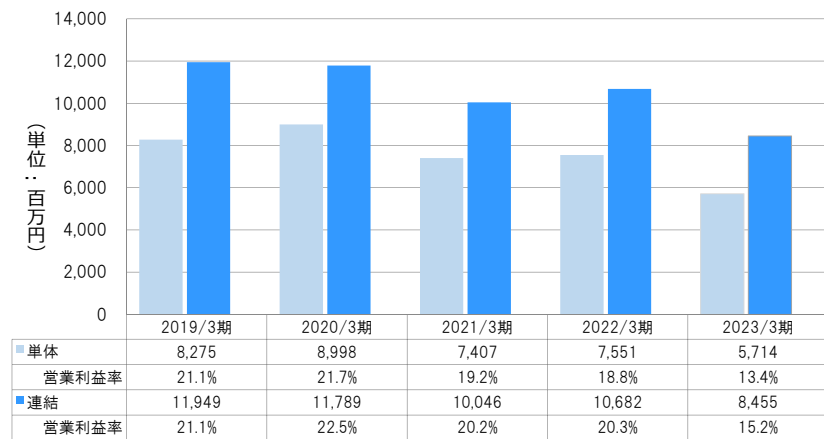
02 売上高推移（単体・連結）	12 地域別の概要
03 営業利益推移（単体・連結）	13 地域別 当期計画
04 経常利益推移（単体・連結）	14 設備投資の推移（連結・単体）
05 親会社に帰属する 当期純利益推移（単体・連結）	15 減価償却費の推移（連結・単体）
06 売上高（対前年実績）	16-17 今後の事業計画 1（連結・単体）
07 売上高（対前年実績、対計画）	18-22 今後の事業計画 2（アリアケジャパン）
08 営業利益（対前年実績）	23-33 今後の事業計画 3（海外）
09 営業利益（対前年実績、対計画）	34-37 サステナビリティへの取組
10 単体業績の概要（利益変動要因）（前期比較）	38 アリアケグループ「世界7極体制」
11 単体業績の概要（利益変動要因）（計画比較）	39 アリアケジャパン会社紹介

〔補足資料〕決算のポイント

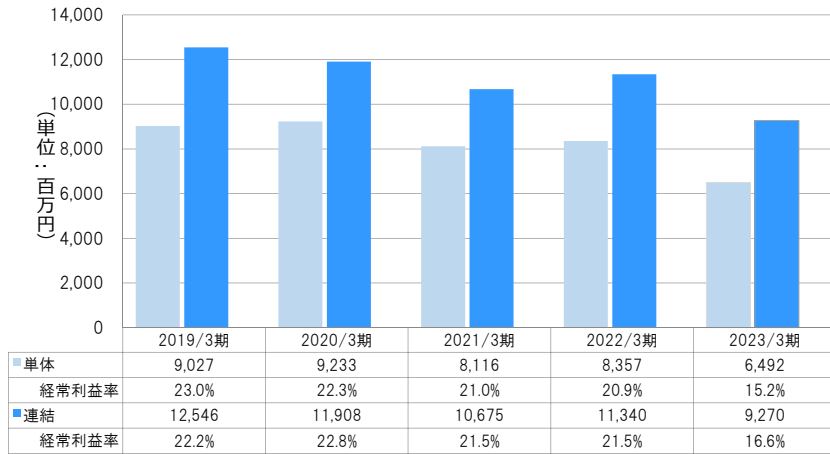
売上高の推移（単体・連結）



営業利益の推移（単体・連結）



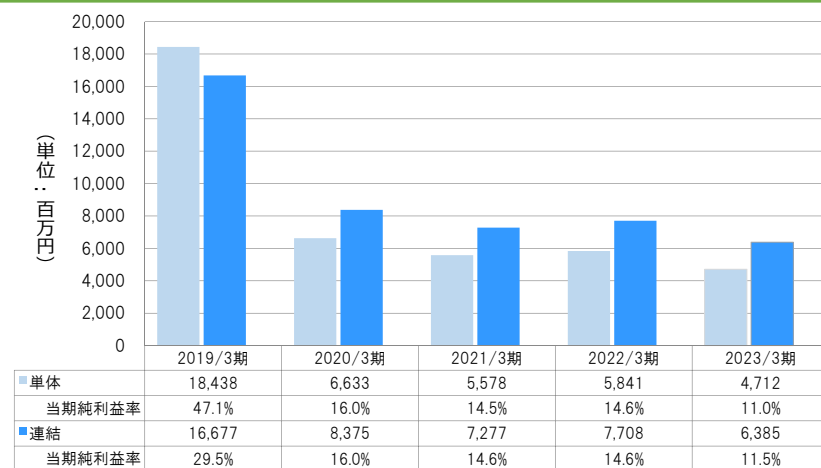
経常利益の推移（単体・連結）



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

4

親会社株主に帰属する当期純利益の推移（単体・連結）

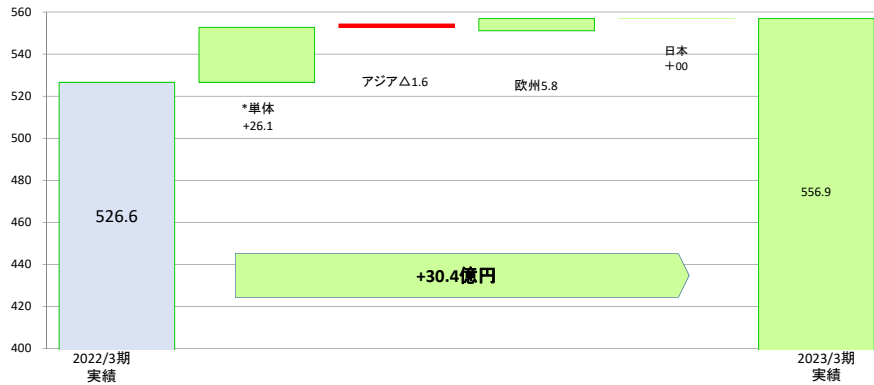


ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

5

売上高（対前年実績） [1]

(単位：億円)



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

6

売上高（対前年実績、対計画）

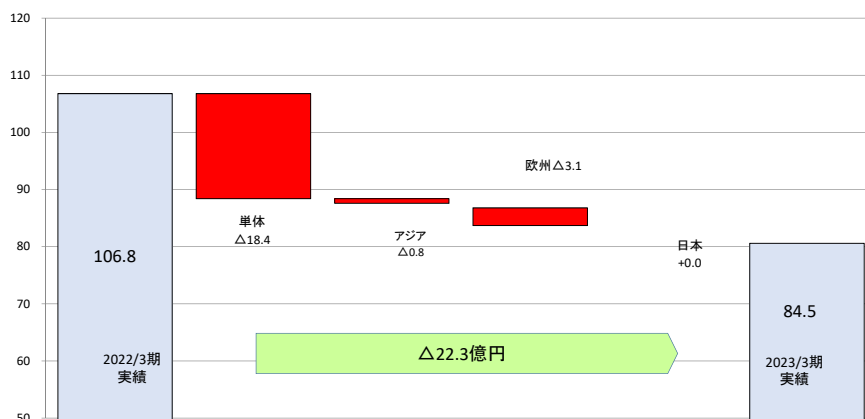
※子会社は連結調整後		(単位：億円)					計画	
	2023/3期 (A)	2022/3期 (B)	増減 (A-B)	%	為替中立	2023/3期 (C)	増減 (A-C)	
アリアケジャパン	426.9	400.8	26.1	6.5%	-	420.0	6.9	
子会社計 ※	130.1	125.8	4.3	3.4%	-2.5%	141.0	△ 10.9	
アジア	81.7	83.3	△ 1.6	-1.9%	-6.5%	94.0	△ 12.3	
欧州	45.6	39.8	5.8	14.5%	5.7%	44.0	1.6	
日本	2.8	2.7	0.1	3.6%	-	3.0	△ 0.2	
連結	557.0	526.6	30.4	5.8%	3.8%	561.0	△ 4.0	
EUR	141.47	130.51	10.96			129.00		
人民元	19.01	18.06	0.95			16.70		
台湾ドル	4.33	4.15	0.18			3.84		
ルピア	0.0085	0.0081	0.0004			0.0076		

ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

7

営業利益（対前年実績）

（単位：億円）

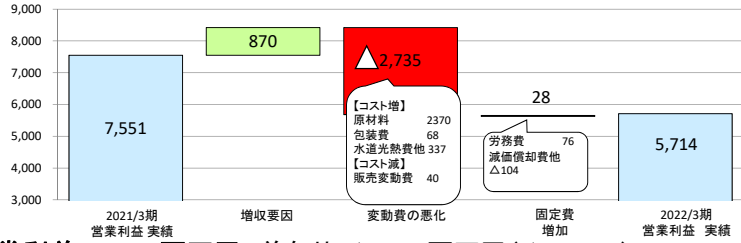


営業利益（対前年実績、対計画）

※子会社は連結調整後		(単位：億円)					計画	
	2023/3期 (A)	2022/3期 (B)	増減 (A-B)	%	為替中立	2023/3期 (C)	増減 (A-C)	
アリアケジャパン	57.1	75.5	Δ 18.4	-24.3%	-	84.0	Δ 26.9	
子会社 計 ※	27.4	31.3	Δ 3.9	-12.5%	-17.3%	33.0	Δ 5.6	
アジア	20.1	20.9	Δ 0.8	-3.9%	-8.4%	24.0	Δ 3.9	
欧州	7.2	10.3	Δ 3.1	-30.1%	-35.5%	9.0	Δ 1.8	
日本	0.1	0.1	0.0	40.0%	-	0.0	0.1	
連結	84.5	106.8	Δ 22.3	-20.9%	-23.3%	117.0	Δ 32.5	

【前期比較】単体業績の概要〔利益変動要因〕

■ 営業利益 5,714百万円 前年比△1,837百万円 (△24.3%) (単位:百万円)



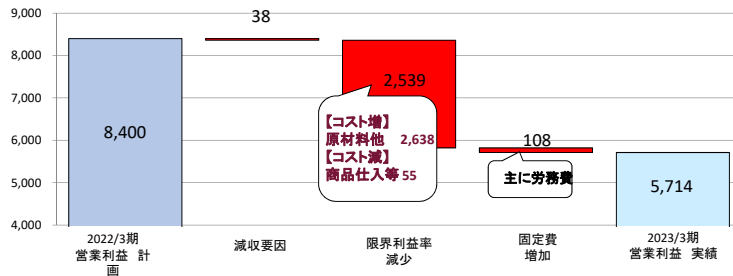
■ 経常利益 6,492百万円 前年比 △1865百万円 (△22.3%)

(単位:百万円)

増加要因	貸倒引当金戻入額	90
	受取配当金他	100
減少要因	営業利益減少	△1,837
	為替差損	△175
	受取利息他	△43
合計		△1,865

【計画比較】単体業績の概要〔利益変動要因〕

■ 営業利益 5,714百万円 計画比△2,685百万円 (△32.0%) (単位:百万円)



■ 経常利益 6,492百万円 計画比△2,407百万円 (△27.1%)

(単位:百万円)

増加要因	為替差益	139
	貸倒引当金繰入	27
	受取配当金他	112
減少要因	営業利益減少	△2,685
	合計	△2,407

地域別の概要

アジア

- 中国は、ロックダウン、ゼロコロナ政策による経済の停滞を受け、販売が落ち込み減収、減益。
- 台湾は、コロナの影響を受けず、販売は好調で増収、増益。
- インドネシアは、日本向け輸出、同国内販売も堅調。

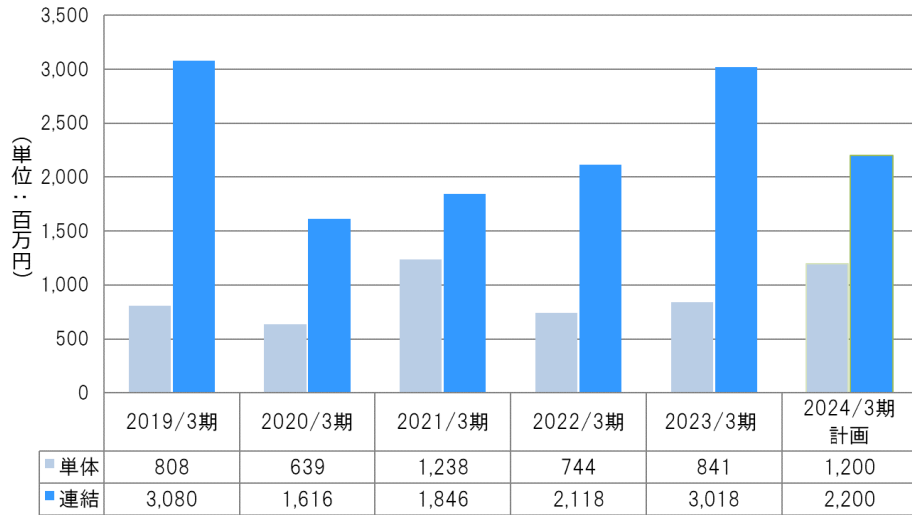
欧州

- 外食向け、産業用共に販売好調により増収となるも、エネルギー、原材料コスト高により減益となる。

地域別 当期計画

※子会社は連結調整後				(単位：億円)		
	売上高			営業利益		
	2024/3期 計画 (A)	2023/3期 実績 (B)	増減 A-B	2024/3期 計画 (A)	2023/3期 実績 (B)	増減 A-B
アリアケジャパン	440.0	426.9	13.1	66.0	57.1	8.9
子会社 計 ※	154.0	130.1	23.9	27.0	27.4	△ 0.4
ア ジ ア	95.3	81.7	13.6	22.8	20.1	2.7
欧 州	55.9	45.6	10.3	4.1	7.2	△ 3.1
日 本	2.8	2.8	0.0	0.1	0.1	0.0
連結	594.0	557.0	37.0	93.0	84.5	8.5
EUR	141.47	141.47	0.00			
人民元	19.01	19.01	0.00			
台湾ドル	4.33	4.33	0.00			
ルピア	0.0085	0.0085	0.000			

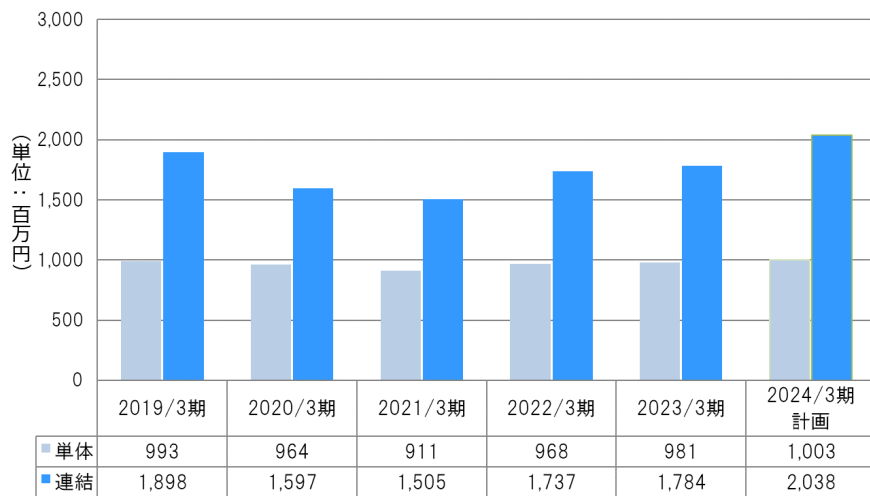
設備投資の推移（連結・単体）



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

14

減価償却費の推移（連結・単体）



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

15

今後の事業計画[1] (連結・単体 概要)

□ 連結

3年後の2025年度（2026年3月期）の連結売上高は679億円（海外売上高比率32%）、営業利益率19%を目指します。

持続的成長を狙える市場に対して、更なる経営資源の投入を図って参ります。

長期的には後述の販売戦略を実行し、2030年度は国内500億円、海外500億円の合計1000億円の売上達成を目指します。

□ 単体（アリアケジャパン）

国内市場での嗜好や業態の変化を読み取り、新たな製品開発（大豆や野菜ベース等）と市場開拓（流通、EC等想定B2C製品）を行い、さらなるシェア・アップを図ってまいります。

今後の事業計画[1] (連結・単体 中期3年計画)

(単位：億円)

		実績		計画		
		2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	単体	401	427	440	450	460
	連結 子会社	158	169	194	220	261
	連結 調整	△ 32	△ 39	△ 40	△ 41	△ 42
	連結売上高	527	557	594	629	679
営業利益	単体	76	57	66	74	83
	連結 子会社	31	27	27	36	48
	連結営業利益	107	84	93	110	131

今後の事業計画[2] (アリアケジャパン①)

□ 中長期計画

- 従来の中期計画を上方修正し、2023年度440億円を起点に毎年度10億円の売上増を図り、2025年度には、460億円、2030年度には、500億円超の売上達成を目指しております。
- 既存カテゴリについては、製法・製品のブラッシュアップ、提案営業・B4B推進により、売上増を図ります。2030年度450億円の売上を目指します。
- 新規カテゴリとして、大豆や野菜を原料としたプラントベースの製品及び従来の業務用・加工用の枠組みを脱したB2C製品の開発と拡販を行います。
- 2030年度500億円達成時、プラントベース製品群25億円、B2C製品群25億円の売上を目指しています。

今後の事業計画[2] (アリアケジャパン②)

□ プラントベース製品

- 健康と環境意識の観点から、プラントベースの食品が注目され、その市場規模は2035年には世界で38兆円と言われており有望な市場です。
- 事業の持続的発展のため、有限かつ環境負荷の大きい畜産系以外の原料を使用した製品（一部代替も含め）による事業活動を構築する必要があります。
- 畜産系原料不使用にすることで、これまで輸出が困難であった国への輸出が可能になります。
- 2022年度は、新たに大豆ベースの製品を開発・投入し、ベース素材、調味料、完成品スープ・ソース等が採用されました。今後も新製品の開発・市場投入を推進します。

今後の事業計画[2] (アリアケジャパン③)

□ B2C戦略

- B2C展開することで、顧客の販売動向や商品政策に左右されない市場を自ら造ることが可能になります。
- 当社はすでに2021年売上ベースで年間約40億円のB2C製品を製造し販売しております。商品形態は、パウチ、缶詰、カップ、チューブ、紙パック、個袋など多岐にわたります。
- B2C製品を開発・製造するノウハウは十分にあります。しかし、現在はほぼすべてが顧客ブランドを冠したODM製品です。今後は自社ブランド品の販売によるブランド確立を目指し、当社の強みを生かせるB2C製品の企画・開発・販売を推進します。

今後の事業計画[2] (アリアケジャパン④)

□ 設備投資

- 国内販売500億円に対応する生産能力の増強を行います。(約6.6億円)
- 九州第二工場B棟に、B2C対応具材充填ライン設備 投資額3.3億円
生産能力60万食/月(小袋パウチ専用) 13億円/年 2023年11月稼働
ダブルハンド具材充填機、自動パウチローダー、スプレー式レトルト殺菌機
- 九州第一工場に、配合・冷凍ライン 投資額2.5億円
生産能力 43億円/年(配合品ベース) 2023年9月稼働
配合槽6m³3基 急速冷凍庫(18t/日)
- 九州第二工場A棟に、B2B製品充填ライン設備 投資額0.75億円
生産能力14億円/年 1~3kg充填機、コンピュータースケール 2023年10月稼働

今後の事業計画[2] (アリアケジャパン⑤)

□ 設備投資

- 九州第一工場 常温原料倉庫（旧抽出工場改装）設備投資2.2億円
2023年2月稼働 保管能力500t 海外グループ会社原料保管
- 社内に自動化設備開発組織を設置 自動化・機械化を推進しました。
多関節ロボットパレタイザライン、自動空缶供給装置、自動缶蓋供給装置
自動製品均し装置等ライン及び装置の自社設計・導入
- 更なる生産能力拡充のため、自動化・機械化を徹底的に追及した新工場の設計を
開始致します。九州第二工場内 新建屋建設 生産能力100億円/年
2025～2026年稼働を目標にしています。

今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

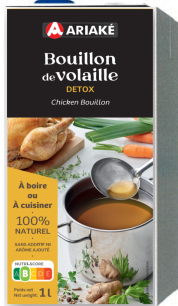
□ UHTストレートブイオンによるB2C戦略

- ベルギー工場内に25億円を投じ、UHT設備新設及び抽出設備増設を**実施**致しました。（2023年1月完成）
- この設備により、100%天然の高品質のUHTストレートチキンブイオンを製造しフランス国内にて家庭用を中心に販売します。
- UHTストレートブイオンは、既に米国で約2000億円、スペインで約200億円、イタリアで約40億円の市場があります。
人口比（フランス6500万人、イタリア6000万人、スペイン4700万人）から、フランスでは250億円の市場規模が見込めます。
- 拡販手段として、ARIAKEブランドで、大手スーパーとの販売交渉を進行中です。
チキンブイオンはフランスでは料理のベースとして幅広く使用され確実に売上に繋がると予測しています。また、家庭用だけでなく、フードサービスへの展開も併行して検討しています。
- UHTブイオンを中心とした販売戦略により2030年度には約100億円の売上を目指しております。

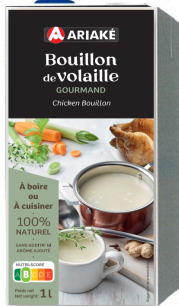
今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

□UHTストレートブイヨンの製造

- UHTストレートブイヨン用として、新たな抽出方法を確立しました。製品は、オールラウンドのクリアブイヨンと煮込み料理に向けたクラウディブイヨンの2タイプを用意します。
- また、副生物のストックやミートはフランス工場のスプレードライヤーで乾燥し製品化します。残渣の処理費用削減と原材料費低減により大幅な利益改善となります。



clear



cloudy



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

24

今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

□UHT用抽出設備

抽出槽



抽出液受槽



濃縮器



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

25

今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

□UHT

UHT (全体)



充填機



自動製函機



殺菌機



パレタイザー



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

26

今後の事業計画[3] (海外②フランス)

□スプレードライによるインダストリー向け粉末製品販売

- 欧州のブイオン、ストック調味料は粉末形態が主流になります。これまでの液体に加え新たに粉末の製造販売を行います。当社の優位性である抽出から乾燥までの一貫生産を行うことで効率的な生産が可能です。
- 設備投資8億円を行い、スプレードライヤー及び建屋の建設を進め、2023年1月に完成致しました。実機生産の製品を使用し、拡販営業活動中です。約100t/月の生産能力があり売上高は10億円/年を見込んでおります。
- スプレードライヤーでは、ストックパウダー、ミートパウダーなどを乾燥し、欧州圏のインダストリー向けを中心に販売を行います。フランス工場のブイオン、ストックやベルギー工場のUHT用抽出品の副生物も原料として使用するので、市場（顧客）の用途に応じた製品の製造が可能であり、顧客のコストメリットにも貢献できると思われれます。
- スプレードライ品をベースにしたブレンドパウダー品の生産も行います。それらを合わせて2030年度には現在の約2.5倍の40億円の売上を目指しております。

ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

27

今後の事業計画[3] (海外② フランス)

□スプレードライヤー設備 原液配合設備



本体チャンパー上下



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.



スプレードライヤー建屋



ろ過及び充填設備



今後の事業計画[3] (海外③中国)

□新工場の建設

- 日照市の工業団地53,000㎡に新工場を建設予定で現在設計を進行中です。総投資額は50～60億円、最終的な生産能力は250億円程度を想定しております。
- 新工場は中国における労務費の上昇と少子化を念頭に、これまで蓄積した経験と最新技術を基に先進的な自動化工場とし、生産性を飛躍的に向上させます。
- 青島工場の生産能力増強中です。(1.5倍の売上に対応可能 2023年度)

□販売戦略

- 当面は現在の主要顧客である外食、加工メーカー、CVSを中心に売上増を図ります。新工場では、消費者向け最終製品の製造が可能なラインを設置し、天然調味料をベースにした調理加工品（日本式予製菜）を製造する予定です。
- 従来の調味料原料から家庭用商品の市場を拡大し、アリアケのブランド確立を目指します。

□成長戦略

- 当社の市場予測では、今後も中国市場の拡大は大いに期待でき、2026年度には100億円、2030年には250億円の売上を目指しております。

今後の事業計画[3] (海外④台湾・インドネシア)

□台湾

- 既存顧客が外食中心のため、加工食品メーカー（即席麺、CVS、ベンダー、消費者向け最終製品製造メーカーなど）や健康食品メーカーへの営業強化中です。
- 日本式の提案営業を採用することにより、顧客要望事項の実現と顧客が気づいていない新たな関連商品の提案を行います。この事により、商品の幅を広げると同時に将来的なスプレッドライヤーや具材入充填包装機の採用を検討中です。また、技術面では日本のR&Dに台湾専用スタッフを設け、課題を共有する組織を作りました。

□インドネシア

- 同国内市場とASEAN各域の販売強化中です。特にASEAN各域での商圈拡大を目指してまいります。
- 国内では、新たにチキンミートパウダー（ハラル仕様）が採用され、拡販が進み国内売上が前年の約2倍以上になりました。
- 国内に加え、シンガポール、フィリピンなどASEAN各域の加工食品メーカー、外食への販売が増加し、日本向けを除く売上が全体の30%まで成長してきました。
- 国際食品安全イニシアチブであるBRC認証を取得しました。（2022年6月）

今後の事業計画[3] (海外⑤米国)

□米国市場への再進出

- 最終的に東海岸バージニア州チェサピークに1万7千坪の候補地を選定致しました。バージニア州関係者と協議を重ね、進出に向けての準備中です。
- 米国では主にB2C製品中心での販売展開を検討しています。

□プラントベース

- 米国ではノンアニマル、プラントベースの需要が伸びており、その市場は1兆円とも言われております。
- 現在国内で米国市場をターゲットとしたプラントベースの新製品を開発しております。

□調理加工品

- もう一つの柱となるのが、消費者向け最終製品（調理加工品）の製造です。国内で培った、CVS向けビーフシチュー、カレーなどの生産技術をさらに進化させ、利便性を向上させ、かつ品質に優れた製品を製造・販売する計画です。
- 国内での開発は順調に進行中です。

今後の事業計画[3] (海外グループ 足元の状況 アジア)

□中国

- 2023年年初は、ゼロコロナ政策により、販売は不調でしたが、2月、3月、4月と段階的に回復し、3月、4月は対前年を大幅に超える売上となっております。
- 5月以降も同様の傾向が続き、通年では対前年を上回り、最終的には2021年度を上回る売上を期待しております

□台湾

- 2022年度はコロナの影響を受けず増収となりましたが、引き続き今期も順調に推移しており、対前年を上回っております。

□インドネシア

- インドネシアも台湾と同様に2022年度はコロナの影響を受けておらず、今期も順調です。国内売上が伸長傾向にあります。

今後の事業計画[3] (海外グループ 足元の状況 欧州)

□ベルギー

- 売上は堅調に推移しております。エネルギーコスト高は、若干緩和しつつありますが、引き続き厳しい状況です。
本年後半は、UHT製品による売上増を予定しております。

□フランス

- 計画に沿って順調に売上推移しております。
ベルギー同様、エネルギーコスト高は、若干緩和されつつありますが、2023年をピークに数年間は継続するものと予測されます。

□オランダ (ヘニングセン)

- インダストリー需要に回復が見られ、売上は計画を上回り順調に伸長中です。

サステナビリティへの取組

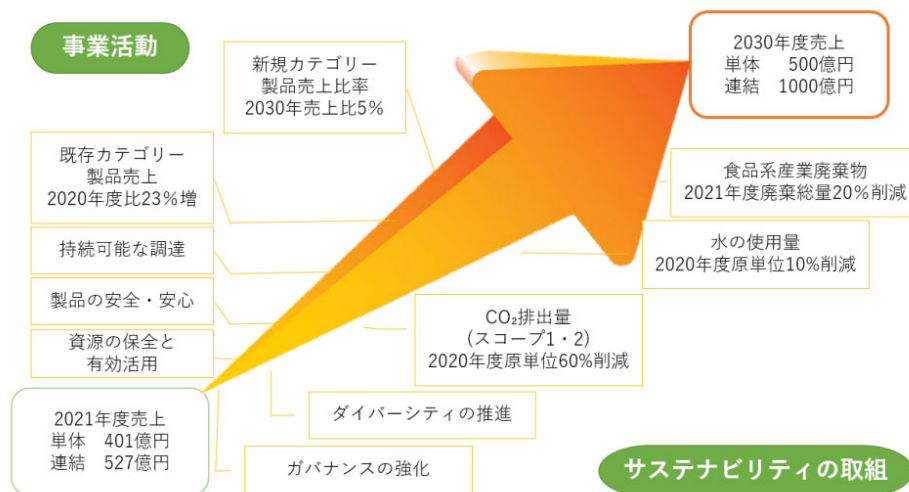
□サステナビリティ経営の推進

- サステナビリティ経営戦略の策定（基本方針、ビジョン、経営方針）、サステナビリティ委員会の設置、マテリアリティ（重要課題）の特定プロセスの整備、マテリアリティの特定及び主要な取組指標KPIの設定などを行い、具体的な取組み事例とともに、当社ホームページ上に開示致しました。

□環境価値向上への取組

- 当社は、地球温暖化対策の一環である脱炭素に積極的に取り組み、2021年4月から国内生産工場で使用する全電力について再生可能エネルギーに切り替えた他、LNG気化器の蒸気式から空温式への変更、空調設備の省エネ改善、ボイラー排熱の有効利用などに積極的に取り組んで参りました。その結果、2021年度の九州第一工場及び第二工場の二酸化炭素総排出量は、2020年比約50%まで削減することができました。（2022年度は集計中 2023年6月末開示予定）
- 今後も、更なる省エネ対策、熱エネルギーの回収再利用、廃棄物活用・減容化、使用水の削減など、SDGsへの対応、サステナビリティ経営に継続的に努めてまいります。

事業活動とサステナビリティの調和



太陽光発電システム導入による脱炭素化の推進

当社は、脱炭素化に積極的に取り組み、その一環として2022年5月1日より新たに、自家消費型太陽光発電システム（オンサイトPPA）による再生可能エネルギー電気の使用を開始いたしました。本システムでは限られた設置スペースを有効活用するため、工場の屋根に加え、カーポート型の太陽光発電システムを導入いたしました。本事業は、環境省の「ソーラーカーポート等の新たな自家消費型太陽光導入支援事業に関する優良事例」に選出され、環境省主催のPPAに関するオンラインセミナーにおいて事例発表いたしました。

(<https://www.env.go.jp/content/000077203.pdf>)



九州第二工場



九州第一工場

ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

36

サステナビリティ取組事例

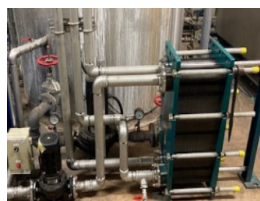
LNG気化器の空温式への変更
及び冷気の室内冷房への有効活用



香味オイル製造時の野菜残渣を回収
再利用し、粉末調味料として製品化



蒸気ドレン、ボイラー排ガス等から
熱エネルギーを回収し再利用



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

37

アリアケグループ「世界7極体制」



アリアケジャパン会社紹介

□会社紹介動画

会社紹介の動画を新たに作成致しました。

下記YouTubeでご覧いただけます。
(期間限定 2023年6月30日まで)

<https://youtu.be/SqEgC8vOEIQ>

- 本資料は、会社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料に記載されている業績予想（計画）及び、将来の予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。これには為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上、収益性、設備投資、その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、疫病や健康問題の影響など、さまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績は異なる場合があります。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。

第45期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）
決算のポイント【単体】

2023年5月12日

(単位：百万円)

主要資産・負債等

総資産

	2023年3月期	2022年3月期	増減
総資産合計	109,951	107,345	2,606

流動資産

	2023年3月期	2022年3月期	増減
流動資産合計	61,231	67,060	△ 5,829
現金及び預金	42,724	49,541	△ 6,817
たな卸資産	8,490	6,829	1,662
受取手形・売掛金	8,519	7,591	928

有形固定資産

	2023年3月期	2022年3月期	増減
有形固定資産合計	11,040	11,098	△ 59
償却資産	6,911	6,990	△ 80
土地	4,047	4,047	0
建設仮勘定	82	61	21

投資等

	2023年3月期	2022年3月期	増減
投資等合計	37,633	29,131	8,502
投資有価証券	20,939	11,950	8,989
関係会社株式	12,051	12,051	0
関係会社貸付金	3,083	3,624	△ 541
子会社出資金	1,147	1,089	58
その他	412	416	△ 4

資本勘定（株主資本）

	2023年3月期	2022年3月期	増減
純資産合計	99,193	97,145	2,048
資本金	7,095	7,095	0
資本剰余金	7,958	7,958	0
利益剰余金	81,075	79,420	1,655
自己株式等	△ 2,042	△ 2,041	△ 1
評価・換算差額	5,107	4,713	394

損益計算書関係

品別売上高

	2023年3月期	2022年3月期	増減	対前年比	摘要
売上高	42,688	40,076	2,612	106.5%	
液体スープ	3,334	2,973	362	112.2%	
液体調味料	33,913	31,755	2,158	106.8%	
粉体調味料	3,613	3,609	4	100.1%	
その他	1,828	1,739	89	105.1%	

販売費及び一般管理費

	2023年3月期	2022年3月期	増減	摘要
販売費及び一般管理費	6,010	5,798	212	
(%)	14.1%	14.5%		
販売費	3,640	3,468	171	
労務費	1,063	1,089	△ 26	
固定費	892	849	43	
技術開発費	415	393	23	

営業利益

	2023年3月期	2022年3月期	増減	摘要
営業利益	5,714	7,551	△ 1,837	
対売上高比 (%)	13.4%	18.8%		

営業外損益

	2023年3月期	2022年3月期	増減	摘要
営業外損益	778	806	△ 28	
営業外収益	786	877	△ 91	
配当金	504	404	100	
家賃収入	31	29	2	
為替差益	139	314	△ 176	
その他	113	129	△ 17	
営業外費用	8	71	△ 63	
貸倒引当金繰入額	0	63	△ 63	
その他	8	8	0	

設備投資・減価償却費

	設備投資					減価償却費			摘要
	単体					連結	単体		
	単体合計	第1工場	第2工場	バックセンター	その他		連結	単体	
第41期（2019年3月）	808	164	319	35	291	3,080	993	1,898	
第42期（2020年3月）	639	54	557	27	1	1,616	964	1,597	
第43期（2021年3月）	1,238	755	463	19	1	1,846	911	1,505	
第44期（2022年3月）	744	117	549	66	12	2,118	968	1,737	
第45期（2023年3月）	841	96	701	44	0	3,018	981	1,784	

人員（単体）

(単位：人)

	2023年3月期	2022年3月期
男	519	510
女	129	116
計	648	626
臨時（外数）	259	281

関係会社業績（連結調整前）

		売上高		営業利益		当期利益		設備投資		減価償却費	
		2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度		
青島有明食品有限公司	(換算レート) (@19.01) (@18.06)	285,424	342,982	58,708	77,597	52,503	61,673	2,042	5,100	9,218	9,300
	千円	5,426	6,194	1,116	1,401	998	1,114	39	92	175	168
台湾有明食品股份有限公司	(換算レート) (@4.33) (@4.15)	716,146	615,271	201,938	160,542	161,119	126,744	17,414	6,216	342,873	306,663
	千円	3,101	2,553	874	666	698	526	75	26	148	160
F.P. Natural Ingredients SAS	(換算レート) (@141.47) (@130.51)	12,780	12,213	1,190	1,397	1,230	1,393	3,495	3,753	794	810
	千ユーロ	1,808	1,594	168	182	174	182	494	490	112	106
Ariake Europe NV	(換算レート) (@141.47) (@130.51)	19,124	16,346	373	1,703	2,504	3,940	10,653	5,424	1,942	1,880
	千ユーロ	2,706	2,133	53	222	354	514	1,507	708	275	245
Henningsen Nederland BV	(換算レート) (@141.47) (@130.51)	20,424	19,797	4,985	6,170	3,747	4,653	359	331	247	230
	千ユーロ	2,889	2,575	705	805	530	607	51	43	35	30
PT. Ariake Europe Indonesia	(換算レート) (@0.0085) (@0.0081)	81,266	54,882	13,799	3,379	13,535	2,836	1,183	1,942	6,703	7,295
	百万ルピア	691	445	117	27	115	23	10	16	57	59